

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	ESD 後非治癒切除症例における追加外科切除の妥当性の検討
	研究対象者	2018 年 1 月～2023 年 12 月に神奈川県立がんセンターで早期胃癌に対して内視鏡的切除を受けたのちに eCura C-2 と診断された方のうち、包括同意を取得した方
	研究目的	早期胃癌の内視鏡的治療後に再発高リスクと判断された患者様は、追加の手術を行うことが推奨されています。しかし実際には、その方のご年齢や持病などを考慮して経過観察が選択されることもあり、胃癌治療ガイドラインでも、追加切除は患者様に応じた個別判断が推奨されています。本研究では内視鏡的治療後に再発高リスクとされた方を、手術に関するリスクや手術の有無によって群別し比較することで、追加手術の回避が妥当となる患者様の指標を明らかにすることを目的としました。
	研究方法	当センターに残されているカルテから得られる情報のみを研究対象としています。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 6 年 5 月 1 8 日 ～ 西 暦 2 0 2 7 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	<input checked="" type="checkbox"/> 総長が研究実施を許可した日 <input type="checkbox"/> 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	<input type="checkbox"/> 試料:	<input type="checkbox"/> 血漿、 <input type="checkbox"/> 血清、 <input type="checkbox"/> 全血、 <input type="checkbox"/> 末梢血から抽出した DNA、 <input type="checkbox"/> 病理検体(具体的に記載: _____)、 <input type="checkbox"/> 尿、 <input type="checkbox"/> 糞便、 <input type="checkbox"/> 唾液、 <input type="checkbox"/> 胸水、 <input type="checkbox"/> 腹水、 <input type="checkbox"/> 脳脊髄液、 <input type="checkbox"/> 毛髪、 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載: _____)
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報:	<input checked="" type="checkbox"/> 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、 <input checked="" type="checkbox"/> 年齢、 <input type="checkbox"/> 生年月日、 <input checked="" type="checkbox"/> 性別、 <input checked="" type="checkbox"/> 既往歴、 <input checked="" type="checkbox"/> 併存疾患、 <input type="checkbox"/> 外来日・入院日・退院日、 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査値、 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、 <input type="checkbox"/> ゲノムデータ、 <input type="checkbox"/> 看護記録、 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター 研究責任者	胃食道外科・中山雄太
	共同研究機関 および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	神奈川県立がんセンター 胃食道外科 中山雄太 TEL：045-520-2222 利用停止のお申し出は 2026 年 12 月 31 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	